千島概況

修了證書

右者　年度成人教

育講座修了者ニ付之ヲ証ス

十島概

元

千島概況

概説

一、千島列島

千島列島とは北緯四十三度四十分東經百四十五度三十三分國後島南端「ケラムイ」碕より、北緯五十度五十二分東經百五十六度二十九分占守島北端國端碕に至る凡そ一千百八十粁間に羅列する大小二十四島の總稱にして即ち南部千島に屬するもの國後島、擇捉島、色丹島の三島、中部千島に屬するもの得撫島、知理保以南北兩島、武魯頓島、新知島、計吐夷島、宇志知南北兩島、羅處和島、松輪島、雷公計島、捨子古丹島、越渇磨島、知林古丹島、春牛古丹島、温禰古丹島、磨勘留島の十七島、北部千島に屬するもの志林規島、幌筵島、阿頼度島、占守島の四島となる。

此外列島に附屬する岩嶼の稍大なるものにて中部千島に屬するもの摺手岩、磐城島、牛知列岩、帆掛岩（一名「アポマイ」岩）、北部千島に

屬するもの島嶼（トリシマ）列嶼（シマ）白岩等あり。（北部千島なる概念にはもと擇捉以北の諸島全部を包含したるも大正五年得撫以北北千島の中部大小十七島を獺虎・臘府戯及黒狐の蕃殖保護のため農林省に管附以来幌筵島以北の島嶼を北千島と稱するに至れり）

是等諸島嶼は千島火山脈の頭背を形成し南西より北東に稍弓形に延び太平洋及「オホーツク」海を東西に劃し古寺海峡六浬を隔てゝ露領堪察加南端「ロパツカ」岬に連る。

總地積凡そ一万二百餘方粁にして各島別地積左記の如し。

南北別	島名	面積		南北別	島名	面積	
南部千島		四、八九四・一四六（方粁）			羅處和島	六三・三二九（方粁）	
	國後島	一、五〇〇・〇四一			辛志知島	五・八一五	
	擇捉島	三、一三八・九八五			松輪島	五三・〇一〇	
	色丹島	二五五・一二〇			雷公計島	四・三一九	

中部千島		二、七二六・七〇〇		捨子古丹島	一二二・一二三
	温根沼島	一、四三八・五三七		越渡磨島	三〇・七七
	知理保以島	三二・五五九		知林古丹島	六・二〇〇
	式部島	七・五八八		春早古丹島	七三・六四七
	新知島	三四三・〇〇三		温禰古丹島	四四一・三二七
	計吐夷島	七一・三一八		磨勘留島	四二・八七七
	羊知列島	・二八七		島島列島	・一五四
北部千島		三、五九二・九一七		阿頼度島	一五五・七六二
	幌筵島	六、〇四一・五八九		占守島	三八五・五四一
	志林礼島	九・八七一	合計		一〇、二一三・七六三

全島の地積は東京府及神奈川・茨城の両縣を合したる地積より稍小なり。

幌筵島の地積は大役所の地積より二八方粁大なり。

二、地勢

國後島

本島は千島列島の南西端となせるところにして甚南端は野付水道凡そ八浬半を隔てゝ根室國野付埼と相対す。島長凡そ百二十二粁南西より東北に延び幅凡そ二十九粁半乃至七粁四の間に出入す。島勢概ね高峻にして顕著なる山峯は南方に島登山（高八百九十五米）、北方に茶々嶽（高千八百四十五米）、「ルルイ」山（高千五百六米）等あり。河川湖沼の主なるものに古釜府川、「オンネベツ」川、一菱内湖、東沸湖、「ニキシロ」湖、「ヒガシビロクノ」湖等あり。

西岸は概ね山勢直に海に迫るも東岸は平原を擁し砂漬をなすところ少なからず。即ち古釜府、「オンネベツ」両河川の流下するところ廣大なる平原をなす。村落として知らるゝは主として東岸に在り泊、古釜府、植内、乳古路等とす。

擇捉島

本島は列島中第一の大島にして甚南端は國後水道十二理を隔て國後島北東端に相對す。南西より北東に斜亙せる甚長凡そ二百四粁幅凡そ五粁

餘乃至三十粁に出入す。地勢狹長にして西岸は概して緩傾斜をなし交通開け村落相接し水産業頗る発達するも東岸は巖壁峭立して交通開けず産業未だ振はざるもあり。全島中央を縦斷して峻山雄峯各所に聳え主なるものを列記すれば「ベルタルベ」山（高千二百二十二米、南端に位す）、「アトサノボリ」山（高千二百六米）単冠山（高千六百三十九米）、恩根登山（高千四百三十一米）、小田萌山（高千二百六米）、散布山（高千五百八十九米）、茂世路山（高千百二十五米）、神威嶽（高千三百十七米、北端に位り）等あり。湖沼の主なるものに「ウルモベツ」沼、内保沼、「キモンマトウ」、羊萌沼、蘂取湖等あり。河川の大なるものに蘂取川、別飛川、紗那川、留別川あり。附近概ね廣濶なる平原をなし河口に村落あり。海岸は岬角屈曲を存する部分多く甚の大なるもの西岸に散布半島「ボロノフ」鼻等とす。

村落として知らるゝは主として西岸にあり、蘂取、別飛、紗那、留別とし東岸に羊萌あり

色丹島

本島は國水道正南三十四浬根室半島納沙布埼の北東凡四十浬に在り、南西より北東に亞る長さ凡そ二十八粁幅凡そ九粁半の長方形をなす。全島三百米乃至三百五十米の山岳起伏し最高きもの北東端に斜古丹山（高四百十三米）あり。河川とも特記する程の大なるものなしと雖清水は山間の渓泉より得べく清澄なり。沿岸少概して崖地をなすところ多く平地に乏しきも大小數多の良湾形を成すところあり。内最良湾として知らるゝは斜古丹湾にして湾奥に村落あり。本島は明治十七年北千島土人を占守及幌筵島より移住せしめたるところにして現に其居宅は右村落内に在り。

得撫島

得撫島は中部千島の第一の大島にして其の西端は擇捉海峡三十浬を隔て擇捉島北東端と相對す。南西より北東に亞る其の長凡そ百十六粁幅廣きも二十粁に過ぎざる火山島にして今尚島の中央附近硫氣の噴出するものありと言ふ。島の中央に高山脈連亘し其北西部岐嶺屹立し地勢頗る險阻なり。南東部は稍緩傾斜高原を成して海岸に迫るところありと雖海岸は一般に險崖をなす。山峯の顯著なるものは南部に在るところの白瀧山（高千四百五米）、白妙山（高千三百二十五米）、白旗山（高千三百八米）、中央部再び山勢旺盛となり得撫富士（高千三百二十六米）、秋楽山（高千二百三十米）、地獄山（高千二米）、更に北部に亞り海面山（高千百三十七米）、鐘山（高千三百二十三米）等あり。山頂の白雪は八月に入り概ね消失するも淺間には周年残雪を存す。全山大樹林なく、タケカンバ、ハンノキ、偃松、熊笹等多し。河川の稍大なるもの西大川、床丹川海面川ありて西岸に注ぐ。床丹川河口より上流凡そ五百米の處床丹湖をなす。其他東岸に注ぐ數多の河川あり。海岸は概ね險崖なりなるも所々山裳低下して砂濱をなす部分あり。又北緯約五四度四多しと雖も良湾形をなす、鉄地と知らるゝは西岸に二子島泊地、床丹湾、鐘湾（オトヤマ湾）、見島湾、東岸に小丹港（英米人ポートハリボア）と稱せりとなす）あり。

知里保以南島

得撫島の北東凡そ十六理に在り。周圍凡そ六六粁餘 全島三圓錐峯を有す。總大山にして其最も高きその七百四十二米の島頂をなす。昔時土人はヤンプナリオイ」と稱せりと。海岸絶壁峭立し船を泊すべき處なし。本島は北島及武魯頓島と共に往古南及北千島土人の出稼して臘虎を獵せしところなり。

知里保以北島

本島は南島の北東一理餘に在りて臘虎水道を挾む。島周凡そ二十二粁南北に連る三箇の圓錐峯あり。其北に在るもの大崩山と稱し高六百九十一米島頂をなす。中央に硫黄山あり頂上の噴火口より常に白煙を吐き明治十三年五月より六月に至るの間烈しく噴火せりと云ふ。硫黄礦あり同三十九年其の採掘に着手せしものあり。本島は又「プラッド・ナリオイ」と云ひ、昔時土人は「レブン・ナリオイ」と稱す。島周崖壁なるも雖島の北角より砂黄の一頸

地にありて東方に凡そ一粁半の島を成し沙湾を抱く。軍艦武藏及農林省巡邏船等屢々此の地に假泊せることあり。又昔時米人「プロトン」の臘虎出獵場なりしと云ふ。

武魯頓島

地理保以北島の北を西十一哩に在り。島周凡そ十粁餘、高八百一米の峯完起し島形殆んど圓形をなす。周圍三百米の險崖に圍繞せられ所々轟石濱あり僅に上陸し得。往古擇捉土人の臘虎獵のため出稼せしところにして土人名「マカンルー」と云ふ北海の美式なりと。又「プロトン」の名稱は米人「プロトン」の獵場にして起りしと云ふ。

新知島

新知島は知理保以北島の北東方北得撫水道三十八哩を隔つるところに在り、南西より北東に延び其長凡そ五十九粁幅三粁乃至九粁餘の間に出入し全島小岳幡屋し南端に新知嶽（高千五百二十六米）あり。其内の一峯

明治十四年九月烈しく噴火せりと。新知嶽の北東は地勢低く一地頸をなし、以北は山嶽再び隆起し數座の熄火山連亙し内に潮水あり妹湖と稱す。其の他殆んど平地水流を見ず中央に新知富士（高千三百六十米）圓錐狀を成し遠望甚だ顯著なり。北東端は環狀を成せる急峻なる山脈ありて武富湾（露人は「プレスナヤブーフタ」と云ふ清泉湾の義なりと）を抱き湾の面積凡そ十三方粁に亘る廣大なる良港形をなす。津同に山嶽を繞らし水深は頗る大にして岸迫直ちに二、三十米の箇所あり、中央最深部に至れば實に二百四十米に及び、暴風の際と雖波浪狂起せず、其形狀に依りて察すれば一大噴火口なりしものの如し。湾口北東に向ひ、其幅僅に二百米餘りにして水深二米餘に過ぎず。若し之を開鑿し船舶の出入に便すれば中部千島に於ける唯一の避難港たり得べし。本島の海岸は概ね斷崖峭壁なるも僅に新知嶽山麓頸地に砂濱の低地ありて新知湾を擁す。其他東岸に南浦、扇浦の鋪地あり。

本島は往古土人住居し又擇捉以南の土人もこの辺に往來せり。寛政の頃厚岸土人の酋長たりしツイコトリの祖先は此島の酋長たりしと云ふ。

計吐夷島

新知島の北東方新知海峡十浬を隔つるところに在り。殆んど圓形をなせる大山丸山島にして東西十粁南北九粁餘全島山岳より成り、其顯著なるものに二座あり。計吐夷岳（高千百七十三米）、白烟山（高千二米）とす。一座は明治十三年烈しく噴火せりと。略ぼ中央に計吐夷湖あり。海岸は絶壁にして船を寄するに便なるなし。僅に南岸に三並湾ありて唯一の上陸所なり。本島は古来土人の住するなく單雄處和土人冬期出稼に来りて鷲を捕へしと云ふ。

宇志知島（南北二島）

計吐夷島の北東方計吐夷海峡凡そ十四浬に位し、南北二島よりなる両島の周圍に四百米に充たず、干潮時礁脈相連接して歩行すべし。南島は最も廣きところ凡そ二粁半に過ぎず山嶺環狀をなして並列し南岸

深く湾入す。暮田湾と云ふ。湾口僅に高潮時短艇を通ずるのみ。島周
險崖にして西側に御笠山（高三百九十九米）の一突峰あり。暮田湾南東隅磯
濱ありて温泉湧出し、北部に土人穴居の遺址あり。北島は南島よりと稍小に
して細長なる三角形をなし、海岸埔立し南端最高百三十一米の一頂をなす。
昔時羅處和土人鷲、鴨等獵せんがために欲し屢々越渡せりと云ふ。

羅處和島

宇志和島の北々東方摺手海峡凡そ二十理に位す。南北十五粁七東西六粁
半、南北三高地なり、南部に一噴火峰（高五百九米）ありて硫氣を吐出
す。北部は數峰峙立し幌茶々登山（高九百五十六米）と最高とす。西高
地中間の凹地に浮湖ありて小流東岸に通ず。海岸概ね斷崖をなせども
南方には岸低くして好碇湾あり船を着し得るところなり。本島は古来、幌延
の二島と共に北千島土人の古来根據地として居住せしところにして曾て「ヤラフ」
外八戸は明治十五年迄住居せり。

松輪島

羅處和島の北々東方羅處和海峡凡そ十七理に位し、長十一粁幅六粁
半あり。全島概ね山岳なり島頂高千四百八十五米の芙蓉山あり。圓錐狀
の活火山にして近くは昭和五年二月十三日一百中九回の大鳴動と共に爆発し旺に
硫黄を噴出し噴煙天に沖したりしと云ふ。海岸概ね懸崖埔立するも南東
方は山岳低下して岳層を形成し其下に海濱を通ず。東方距岸一粁餘
の處に碧城島（高七十米）ありて其間に小灣する水域を大和湾と云ふ。
大正六年軍艦大和屢々入泊せるところにして好錨地たり。

雷公計島

松輪島の北方松輪海峡凡そ十二理に在り。直徑二粁の圓形島にして全島一山其
高五百五十米の熊火山島なり。安永七年同九年烈しく噴火せりと。海岸多く險
阻なり。

捨子古丹島

材輪島の北東半知列岩を挾み凡そ四十九浬に位し南西より北東に至る長凡そ二十五粁、最大幅九粁餘、最小幅九百米餘、瓢形の山岳島なり。南部は高八百二、三十米の高峯起伏し中央部は九十米乃至百五十米の低地頸、平台地をなし西岸に乙女湾を抱く。北部は又高九百餘米の山岳にして安政三年旺に噴火したることありと云ふ。海岸は概ね断崖峭立して女湾は砂濱なりなる。本島は古来臘虎多きを以て古字、幌筵等の土人来りて之を獵し海岸數所に穴居の跡あり。明治五年尤山噴裂して移住人死するもの十三名、同二十六年報效義會員九名西岸に上陸し越年を試みしが其内五名は越渴磨島に去獵して行衛を知らず他の四名は本島に病死せりと。又同年硫黄礦の採掘を試みたる者ありしと云ふ。

越渴磨島

捨子古丹島の北西越渴磨海峡凡そ五浬に在り。東西の長凡そ七浬四幅凡そ五粁五の長方形を成す。全島一山にして其高千百七十九米。海岸概ね險阻なり。

明治三十六年十月捨子古丹島に在りし報效義會員海馬を獵せんがため此島に出稼して死沒せり。

知林古丹島

越渴磨島の西方十六浬に在りて廣さ凡そ二粁八の稍方形をなす。全島一山なり島頂七百三十七米、海岸峭壁削るが如く小艇を僅に寄せ得るに過ぎず。

春牟古丹

捨子古丹島の北東方捨子古丹海峡凡そ十六浬に在り。北西方を頂点とする三角形島にして長凡そ十三粁、幅凡そ八粁餘、中央部は截頭圓錐形にして高千百十三米。春牟古丹嶽と稱す。北西部は山岳低下して數個の沼あり奥類棲息せずと云ふ。北隅に一小湾あり湾奥砂濱よりなる。海岸に穴居の跡を存す。「ハルムコタン」は百合多き所の義なりと云ふ。

温禰古丹島

春牟古丹島の北々東方春牟古丹海峡凡そ八浬に在り。南々西より北々東に

延び其長凡そ四十二粁半北部金長の半は幅凡そ七粁四なれども南部は直徑十六粁半の圓狀をなす。地勢山岳蟠屈し内顯著なるもの二高峯あり。南部に在るを黒石山と稱し其高三百三十八米の圓錐形の火山にして周圍六百米乃至九百米の外輪山を繞らし中に一湖あり幽仙湖と稱す（海面上約三百（十一米）、北部に根茂山（高千九米）の火山ありて其北方に蓬萊湖あり。海岸の多くは壁岩峭立し僅に砂濱を交ふ、東岸に黒石灣北西岸に根茂灣あり共に灣形開闊好錨地たらず。本島は古来古字、幌筵の土人来り臘虎、狐等を獵したる所にして處々に穴居の跡を存し、明治八、九年頃土人の屋舍若干ありしと言ふ。又明治の初年頃外國船一艘黒石灣附近に於て難破し船員上陸し破船材を以て家屋凡そ二十棟を造り一時假居したることありしと云ふ。

磨勘留島

溫禰古丹島の北西方大和水道凡そ十五理に在り。南北の長凡そ十粁幅凡そ七粁餘なり。地勢山岳險峻にして島頂高千百六十八米三高山と稱す

る、想大山なり。海岸險崖なりなる。本島の西方凡そ十一理にアポスと稱する三角裸岩あり其高三十五米、遠くより之を望めば其形狀恰も船の走るが如し因て又帆掛岩とも稱す（土人名ハリノコ）。

志林規島

磨勘留島の北東方溫禰古丹海峽凡そ三十理又幌筵島の南西端の西方志林規海峽凡そ八理半に在り。東西の長凡そ四粁餘巾凡そ三粁餘。全島山岳なりて島頂七百五十一米。海岸は概ね懸崖直立す。

幌筵島

本島は南西より北東に至る長凡そ百二粁幅凡そ二十粁北部十島の最大島なり。全島火山脈連立し峻嶺峻峯蜿蜒として南西隅より北東に走り分水嶺を成し海上より之れを望めば只山嶽重疊盛夏尚雪を負き絶海孤島の如き觀あるも具さに踏査すれば麓裳淺かに相當の平原をなす處あり。又漢間沖積肥沃の地をなす處あり。火山數多の河川は島の四周に流下し其中

には小現模の発電計畫に適するもの少からず、本島を「アイヌ」語「ウレシパモシリ」と稱し人を多く育てたる島の義なりと云ふと宜なりと云ふべし。山嶽としては千倉嶽（高千八百七米安政年間噴火）、夜鍬嶽（高千七百九十八米）、大硫黄山（高千四百九十三米）、冠嶽（高千六百八十米）、赤嶽（高千四百六十四米）、白煙山（高千三百四十四米）、轟山（高千五百八十六米）等は島の西南隅に在り中央部は千米を超ゆるものなく東北隅に於て山勢再び旺勢となり大正山（高千百八十八米）、屏風嶽（高千百五十四米）、袴腰嶽（高千百五十米）、硫黄山（高千百三十四米）等をなす。河川の主なるものは轟川（長約二十粁南西に注ぐ）島中第一の大河なり）熊川（長約二十粁南海に注ぐ）、其外流下十粁以上の河川にして南海に注ぐものに鱈川、蓮毛川、日の出川等あり、北海に注ぐものに茂奇川、西川、加熊別川、鴨川、荒川等あり。本島周圍は彎曲に富み完全に風浪を遮るものなきも稍良灣形をなすものなきのみならず。即ち西岸に於ては、鮫浦湾、加熊別湾、幌延海峡に臨むもの、柏原湾、東岸に擂鉢湾、武蔵湾、千歳湾等あり。

幌延島の北東方幌延海峡南口前面中央即ち荒畑崎の東方四浬に四興及數箇の露岩あり島嶼列嶼と稱す海禽多し。

占守島

占守島は幌延島の北東端幌延海峡僅に一浬を距て北東に横はる形砲彈の如く其頂部は僅に六浬を距て遥察かに「ロバツカ」岬と相對す。長凡そ二十九粁餘幅凡そ三十粁餘全島緩傾斜の丘陵起伏するのみにして高山なく高きも百八十九米に過ぎず。本島を除き千島列島全部は火山噴火の産成なるに反し本島は地變に依り海底の隆起せるが如き形をなす。岩質は片岡湾附近に於ては凝灰岩、土丹岩等の層をなし其間を玄武岩の之を貫く所あるを見る。河川は數多あれども流下十粁以上に達するものなく比較的大なるものは南海に注ぐものに中川、北海に注ぐものに別飛川あり。其他浸流數十を算す。港湾或は錨地として利用するのは北西岸に別飛湾、幌延海峡に臨むもの片岡湾、南東岸に中川湾あり。

阿頼度島

本島は幌延島の北西隅より約十二浬北西に孤在し帝國の極北にして最北端を最北碕と稱し北緯九度五十度五十五分三十秒東経凡そ百五十五度三十二分に在り。全島一個の熄火山にして直径約十四粁内外の圓形を成し列島中、最高峰にして高さ二千三百三十四米、明治七年、竟改五年噴火したりと。山容頗る秀麗遠く望めば富士の海上に浮ぶに異ならず。アライド」は露人の命名にして土語「オヤコバゲ」又は「チヤチヤ」と云ふ。「オヤコバゲ」は山名、親子場山と云ふ。「チヤチヤ」は老人の義なりと云ふ。河川は大河なく渓流十數條の四周に流下す。

三、地質

千島列島主帯の基底をなすものは砂岩、頁岩、凝灰岩等より成る第三系にして其の中にまゝ化石を含むものあるもその正確なる時代に就いては未だ審かならず。この第三系を蔽ふて変朽安山岩及その凝灰岩層の存在する

部分も少なからず。これ等は更にその上部を新しき安山岩質、熔岩及びこれに関係する集塊岩或は凝灰岩等の厚層のために蔽はれ居ること常なり。

安山岩は千島全島に亘り最も廣き分布を示し列島中に存する各火山の本体を形成するものにして、その種類としては両輝石安山岩最も多きも時に紫蘇輝石安山岩、輝石安山岩、角閃石英安山岩等と諸所に露出す。比較的古き時代に噴出せりと思はるゝ安山岩の熔岩の一部には往々美しき柱状節理の発達し居る事あり。國後島の材木岩の如きその著しき例なり。

玄武岩は阿頼度島その他極めて新しく成立される火山に於てその主要なる熔岩として現はれ居るもその他の部分に於ては比較的小規模に流出したる熔岩として安山岩熔岩を蔽ふて産出するものなり。本岩は安山岩に比し暗色緻密なるものにして橄欖石を含むこと多し。

上述の諸火山岩は主に熔岩流として現はるゝものなるも、また岩床又は岩脈の形式を示し居る事あり。

尚これ等の火山岩は常にそれ等に関係ある凝灰岩集塊岩等を伴ふものにして特に美しき圓錐狀火山に於ては多數の熔岩流と火山岩層と交互に排列し標式的層狀火山を示し居るを常とす。

千島に於ける火山岩はまだ未だ詳細の部分多きため全体に亘りての特性を論ずる事を得ざるは遺憾なるも從來知られたる材料によれば大体に於て北海道に於ける諸火山のものと略同樣なる性質を有するものと認めらる。

茲に注意すべきは北千島より南千島に至るまでの海岸或は溪谷の轢石中又は集塊岩中の捕虜岩として花崗岩質岩礫の発見せらるゝ事なり。同岩礫の原産地に就きては未だ知るべき處なく其の他の岩石との地質學的關係も不明なり。

唯南千島前帶たる色丹島の一部には梢鹽基性の深成岩の存在を知られ居る或或は全千島に於ても基底深き部分或は既に浸蝕し盡されたる部分にこの種の岩石の分布あるやに思はる。

千島は河川、平地少く又海岸斷崖に富むため第四系に屬する堆積物は極

めて少きと唯段丘上に比較的廣き範圍に亘り薄層の分布する区域少なからず。

千島列島西南部の前列帶を成す色丹島は根室花咲半島の延長線上に並ぶ數個の島嶼よりなるも、これ等は地質的にも地形的にも千島列島主帶とは大いにその趣を異にし總ての点は根室半島のそれに近似し居れり。

千島列島の地質學的並びに岩石學的研究は環太平洋区域の火山に關する知識向上のため重要なるものなるも、僅に明治三十年以前にペレー、ミルン、スノー、横山、石川、神保諸氏等の調査が行はれしのみにてその後久しき間同方面の研究は等閑に付され居れり。然れども近時行はれ居る幾度かの地質調査により漸次明かになりつゝある故、全般に亘る狀態の詳かにせらるゝこと遠からず。又同調査の結果千島の富源開発の上に貢献する事甚からざるべし。

四、氣象

南千島に於ては氣温は一般に海上氣象の支配を受くると以て寒暑の差甚しからず、極寒季は北海道本土根室地方と大差なく上川、十勝地方に比す

れば遅に高温なり。

風は十月下旬より翌年四月迄は概ね北西の風多く其最も強烈なるは十一月、十二月にして一月以後は稍勢力を減ず。夏季は特に六月より八月に至る間は偏南東風卓越し九月時々北西風を来し十月初旬より北西風多次となる。

霧は三月より九月に至る間にして其頻繁なるは六月、七月にして降雪は十一月に始り翌年五月上旬に終る。而して一月、二月最も多し。雖強風のため吹去られ各地とも山間凹地を除く外は堆積することなく僅に一米三内外に過ぎず尚四月下旬より融雪し始め原野に在りては五月下旬に至れば全く溶解す。

流氷は二月或は三月西海岸に在りては北或は北西風により襲来し偏南東風により流去す。又一月より三月迄は通例海岸氷結し航海及解舟の交通杜絶す。

雖東海岸擇捉島冠湾、國後島古釜府湾等は結氷することなく流氷は三、四月頃稀に湾内に入ることあるのみなり。

北千島諸島に於ける氣象に就いて未だ完全に調査しえざるものなく報致義

會當時のもの或は船舶の航海中に於ける短日月間の觀測記録に過ぎず、加ふるに其觀測方法宜しきを得たるや疑はしきものあるも氣候の概念を知り得べし。

一般氣候 春季は前半未だ寒氣ありて海霧生ずることあるも北西風極めて強く後半に至れば風向一定せずして四、五月頃晴天の日を見ることあるも折々海霧襲ひ来り五月末漸く消雪期に入るに伴ひ野草僅に萌芽するに至る。夏季は浸潤にして海霧の日多く概して南東風卓越し秋季に入れば風向或は北西となり九月早くも野草凋落するに至る。十月に至れば強風頗る多しと雖海霧立ちず比較的天候晴朗の日多く心氣頗る爽快時となり十一月中旬に及ぶことありと云ふ。十月下旬降雪を見冬季は北西風極めて強し。一年を通じて寒暑の差甚しからず、夏暑氣甚だ薄く冬季酷寒期と雖寒威極めて烈しからず。世人の想像するが如く極寒の地にあらず。

流氷は二月頃「オホーツク」海より幌筵並に占守の西岸及東岸に漂着して海岸

を封塞するに至り其全く消失し云るは四月下旬或は五月上旬なりと云ふ。流氷李前の海水は降雪の爲温度低下し霙様のものと化すると決して堅氷海を鎖すが如きことなし。南岸は流氷を以て海岸一帯封鎖せらるゝが如き憂なしと云ふ。

海霧の最も多きは六、七、八月に生じ甚だ頻繁にして其風向は專南東より西北の間に多く、北千島に越年せる者の言によるに海霧は東海岸に多しと云ふも西海岸に多しとするものあり一定ならず。

雨は北海道本土に比し概して少く、積雪するは十二月以後にして風強きため積雪量を知るに困難なるも吹き溜りに於ては三乃至六米に達するものあるも平均量は一米以下なるべし。而して晴天と雖地上數米間は吹き捲く吹雪のため歩行困難なる日多しと云ふ。又平地の過半消雪するは五月下旬とし七月下旬に至るも谿間山頂には残雪あり。

（統計略）

千島略史

千島列島は遠く明正天皇寛永三十年（皇紀二、三〇三年）當時西歐諸國に傳へられたる日本の東海にある金銀島探索の目的を以て和蘭國より派遣せられたるマールデン、ゲリツセン、フリースの率ゐる探檢船得撫島に達せるを以て西歐へ紹介せられたる初めとす。

中御門天皇正徳元年（皇紀二、三七一年）露人占守島に来りて貢皮を徴し、爾後島々島を渡り漸次南侵し来り、寶暦年間に既に羅處和以北の諸島を占領し島名を改め、土人を改宗し、一男一皮の年貢を徴收せり。斯て露人圖南益々安を進め、次で擇捉島を窺窬するに至れり。

擇捉島以南の島は既に東蝦夷地の一部に屬し、松前氏の所領なりしも、ことより藩勢微弱にして露人の跳梁跋扈に対し防備を爲すの實力なく、又是を幕府に報告せんか動もすれば轉封、削封等を命ぜらるゝ惧あり。藩の採るべき策は唯露人南下の事實を秘し萬一の僥倖を待つの外なかりしものと相像せらる。

小樽經濟專門學校

偶々阿利人ハニョーウスキリ露人南侵の危急を長崎在留和蘭甲比丹等に
ふるゝ漸く世上に漏るゝに至り、仙台藩の工藤平助、林子平、儒者平澤旭
山等の識者北辺の急を天下に警告す。是に於て老中田沼意次は勘定
奉行松平伊豆守秀持に命じ其眞相を調査せしめ、天明五年普請役
山口鐵五郎等五名同下役里見平蔵等五名を蝦夷地に派遣す。北越の人
本多三郎右衛門利明、算數を善くし、兼ねて天文、地理、航海の事に通ず。
偶々蝦夷地調査の事あるを聞き普請役青島俊蔵に請ひ、其足軽となり
て遣行せんことを乞せしが、門人最上徳内常延なるものに代らしめたり。
徳内は出羽國村山郡楯岡村の貧家に生る。安永江戸に出て利明に學び、
略天文、地理に通じ、質性剛毅頗る探檢に適し、一行中の最大功ある者
なり。既にして山口鐵五郎、青島俊蔵等は國後に至りしが、季節
後れしため北進を斷念し福山に還へる。翌年鐵五郎再び國後に渡り
徳内は擇捉より工人二人を伴ひ國後に至り、露國南下の狀況を探り再び

擇捉に至り進みて得撫に渡り露人に逢ひ貿況を調査す。本邦人が擇
捉得撫を踏査せるは徳内を以て嚆矢とす。この調査は幕府高路者の
交迭により中止せられたりと雖も、露人南侵の狀況明白となり、蝦夷にも一大警
に驚かれか復戎が府にあらざるべし。閑却すべからずとなし寛政三年蝦夷救済
交易の件決定し同年普請役最上徳内、和田吉太夫の二人擇捉島より更に
進みて得撫島に渡り、其狀況を視察して福山に歸り遂に江戸に還る。此の交易
は寛政五年露國使命を松前に引見するに至りしため中止せられたるも效果
著しく頗る蝦夷の歡心を得たりといふ。
其後に於ても露人蝦夷諸島を窺窬すること止まず異國船屢々近海を
窺わすにより識者また愬りに蝦夷地の急を說き、其經營に關する建言著
書漸くみつきと加へ寛政十年幕府田付役渡辺久蔵、使番大河内善兵衛、勘定
吟味役三橋藤右衛門に命じ、更に大規模の調査をなしめ續て北方の經營
に着手するに決し、一行八十餘名を派遣す。同年七月一行中の近藤重蔵

普請役最上德内と共に國後のアトイヤより夷舟に乗りて擇捉に渡る。
重蔵の従者木村謙次の日記醉古日札によれば、國後に三基、擇捉に一基の標柱
建つとなせり。此年八月重蔵擇捉より國後に帰り、泊に於て謙次に命じ、木標に
「大日本惠登呂府　江戸近藤重蔵建」と書せしめ、之を擇捉に送り得撫への渡口、
モイレマトとカモイワカオイとの間に建つ。
翌寛政十一年正月東蝦夷地中浦河より知床に至る地並に島嶼を七箇年假りに
幕府直轄となす。重蔵同年二月江戸より帰還を命ぜられ、三月更に蝦夷
地取締御用を命ぜられ、再び江戸を発し松前に赴き、浦河を経て根室に至
り夷舟に乗じ國後に渡り、一行の山田鯉矢衛と共に進んで擇捉に航
せんとせしが、季節を逸し船頭高田屋嘉兵衛と擇捉に派し島内の狀
況を探らしむ。此年重蔵様似に留り翌十二年三月鯉矢衛と共に嘉
兵衛の千船辰悦丸に乗り擇捉に渡る。重蔵擇捉に至るや、米、塩、
衣服、其他の諸品を土人に與へ、前年検定せし海岸に就き漁場十七箇所

を開のしめ漁業の方法を教へ、諭すに國家洪覆の恩を以てす。土人其恩
德を感激し、感泣止まざりしと云ふ。重蔵また擇捉全島を七郷二十五村に分ち、
始めて郷村の制を定め、シャルシャムに於て曩に露人イジュヨが建てたる十字架を
倒し、「大日本惠登呂府」と書したる標柱をカムイワカオイの高地に建て帰る。
斯く幕府は屢々更を擇捉に派し、其施設の見るべきものありと雖得撫島の
處置に関しては一定の対策を講ずるに至らず露人の侵略日に進み来れる狀況
を見るに及んで議論二派に分る。即蝦夷地御用係石川忠房等は露人の辺境を
侵すは國威を傷くるものなれば嚴に帰國を命じ、若し拒む者あらば悉く之
を誅し以て我が武威を発揚し、彼をして南下の念を断たしむべしとの硬論
を唱へ、羽太正養、三橋成方等は外國人との應対は雙方の事情を通じ、
難く軽々に處置すべからず、要するに露人は交易を言むものなれば擇捉
在勤の官吏をして得撫に抵する夷船を検査し、嚴に交易を禁ずるに於ては
彼自ら窮して退去するに至らん、假令退去せずとも、其人員僅に十餘なれば、以て

國家の憂となすに足らず、宜しく一両年動靜を探るべしとの説を唱ふ、幕府正養成方の議を納れ　光格天皇　享和元年（皇紀二四六一年）支配勘定格富山元十郎、小人目付深山宇太郎を選び「ヨカイワタラ」の丘上に「天長地久大日本屬島」の標柱を建て更に「トウホ」（今の床丹）に至り露人ケレドフセに應接し交易は戎國禁ずる旨を諭す。

元十郎乃ち人員氏名を点檢して歸る、翌二年近藤重藏、山田鯉兵衛擇捉に赴き、得撫の狀況を調査せしに、露人歸國の樣子なし。

茲に於て同三年工人を得撫に派遣するを禁じ露人をして全く交易を営む事を能はざらしむ。

享和三年東蝦夷地の假支配を改めて永久幕府に直隷せしめ次で南部津軽の両藩をして擇捉に勤番所を設けて警衛せしむ、光格天皇文化四年（皇紀二四六七年）露人ホヲマトフ前年樺太を侵掠せし餘勢を以て船三艘を艤し

擇捉島内保に上陸し番屋に闖入し番人五郎次郎才長内等を捕ひ米、塩器什を掠奪し火を放ちて番屋を燒く、時に紗那會所には調役下役元締戸田亦太夫、関谷茂八郎等在勤し南部津軽二藩の兵を警備せり。茂八郎露人の内保に来ると聞き藩兵を率ひて海路出動せしが途中内保の焚掠せられしを聞き、紗那に歸り守備を議す、續て露人の進擊に會ひ二藩の戍兵應戰す。露人奥倉に據りて砲を発し、火を放ちて本船に歸る、初め雇吏向宮林藏、雇醫師伊達見達決戰せんとせしも用ひらるゝ人心大に沮喪す、亦太夫茂八郎衆に告げて曰く硝藥皆に盡く先づ退きて後図を畫すべしと、乃ち倉煙を去り亦太夫は有蘭に至りて憤死す。（亦太夫の墓碑戸田澤に現存せり）。五月一日露人復び上陸し武具雜貨を掠め會所倉庫等を燒く、二日亦上陸し負傷して逃るゝを能はざりし南部藩火藥師大林沼五平を捕（三日出帆して北西に向ふ、茂八郎衆を使ひして振別に至り止りまらんとせしが糧食既に盡き遂に國後に逼却す。

此の変により東蝦夷地各場所の人心動揺甚し、箱館奉行羽太正養之を幕府に報告し南部、津軽二藩に戍兵の増遣を命じ秋田、庄内二藩に臨時出兵を達せり。幕府は従来東蝦夷地各場所を直捌となせりが之を廃止するに決し、九月各場所の請負を入札せしめ翌十年責施せり。是に先ちて文化七年高田屋嘉兵衛は擇捉島の請負を命ず、是れ東蝦夷地直捌の第一着手なり。蓋し嘉兵衛の蝦夷地開拓の功に酬ゆる所なるべし。

文化九年嘉兵衛露船の為めに捕へらるるや嘉兵衛の奇智と膽力とに感服し恭敬せしめ幾ばくなくして放還せらる。此の間折衝数月、嘉兵衛斡旋尽力努めて遂に両国の葛藤を解くに至る。嘉兵衛晩年業を弟金兵衛に委ね郷里に退隠し文政十年病没す。天保四年金兵衛嘉賀島の嫌疑を以て擇捉外二場所の請負を罷免せらる。

擇捉場所の請負は高田屋罷免後箱館の商大木屋濱田屋の二人之に代り更に関東屋なるもの請負を経て天保九年藤野喜兵衛外二名請負の命を受く。然るに連年不漁相継き枚を償はざるに至りしを以て遂に之を返納す。同十二年栖原角兵衛、伊達林右衛門の両人に之を命じ文政四年蝦夷全島を松前氏の領せしめ安政元年再び幕府直轄に帰したりと雖も其間両人請負制変ることなく明治維新に至る迄之を継続せり。

明治天皇明治二年開拓使を置き蝦夷を北海道と称し、分ちて十国八十六郡の制を定められ、同年十月千島国紗那郡を仙台藩、国後郡を秋田藩支配とす十一月擇捉郡を彦根藩、十二月振別郡を佐賀藩支配とす。越へて四年冬諸藩の支配と罷めて五年開拓使根室支廳の統轄に帰す。明治八年擇捉以北千島列島と樺太南部との交換條約成る、八月五等出仕時任為基日進艦に乗し千島諸島を巡視し土人に諭すに千島諸島我版に帰す今より三年間に去就を決すべきを以てす。是れ邦人の占守島に至れる嚆矢なり。時に今の片岡に露商「ヒリピヌス」の手代居住し商店一、倉庫二、教会堂一、土人舍二ヲ別乗に土人舍九あり。又新知島武魯頓湾にも亦同人の手代居住し店舗一

小樽經濟專門學校

倉庫一、教會堂一、「アリウト」人十三戸五十七人及牧牛數頭あり。得撫島には「アリウト」人一位するとの三十三人あり、翌九年露人皆退去せり。

明治九年北千島列島を千島国に併せ得撫、新知、古宇三郡と置き、開拓使より吏を遣はし爾後三年毎に物資を贈りて土人を撫恤す。尚得撫島に於て漁場自費新開志望の者はこれを許可する旨布達せらる。明治十四年柳原前光得撫島床丹に漁場を開き漁夫を遣はし鹿鱒を漁す。開拓使より獵夫を遣はし冬期は狐、春期は臘虎を獵せしめ六月に至り引揚げしむ。而して此間外國人猟船連年跋扈出没し徴然盜獲して臘虎漸く減じ遂に其の素民し難きに至る。

十五年開拓使を廃して三縣を置かるゝや千島列島は根室縣に屬し、十七年縣令渭地定基、参事院議官安場保和、内務少輔吉川顯正、陸軍少將小澤武雄等占守島に着し、各島に居住せる北千島土人十七戸九十七人を説いて色丹島に移住せしめ得撫島以北占守に至るの列島悉く無人島となれり。

明治十九年縣を廃し北海道廳を置き、同二十三年吏員を遣はし得撫島に殖民地を選定し地質を調査せしむ。翌二十四年柳田藤吉得撫島床丹に漁場を開く。同二十四年十二月併從片岡利和勅命を奉じ擇捉島に渡り越年し、翌二十五年七月占守島に到着列島全般に渉る地理産物を探査し同九月磐城艦にて歸航す。

同二十六年八月報效義會員郡司成忠外六名占守島片岡湾に来り越年し、翌二十七年同會員三瀬轟外五名また同地に越年せり。

同二十九年九月同會員六十餘名片岡に移住す。爾後この地に一部落を成し同島別称、中川に漁場を創始す。當時の會員別所佐吉今尚この地に在りて漁業に從事す。

同三十年同會に於て探險隊を組織して幌筵島に派し「シーベウトボ」外三ヶ所の漁場を調査し翌年「シーベウトボ」外二ヶ所に漁業を營む冬期に至り獵業に從事せり。又函館の人成田金太郎報效義會と契約し幌筵島日の出漁場を開く。

同三十三年六月北海道廳参事官高岡直吉六名の調査員を率ひ、軍艦武威に

に果に諸島を調査す。

爾来北千島は報效義會の經營する所なりしが、當時交通極めて不便にして自ら報效丸、石川丸、占守丸の帆船を運航し物資食糧の運送連絡に當る等經營頗る悲境を極めたるも産物の價格低廉なるに、時に或は會員の餓死狀態寒心すべき事態を来せることある等業績振はず、其内日露の開戰に際し明治三十七年六月二日會長郡司成忠外會員十八名鳥羽丸に乗じカムサツカに上陸大いに成すこと あらんとせしも志成らず、會長はペトロパウルスクに拘禁せられ會員三島寅吉、荒野錦藏、稚山平吉、樋口栄次郎の四名急を本會に報せんが爲ペトロパウルスクを脱出し短艇に乗じ海藻、野草の類を食し僅に飢を凌ぎ二週餘日を費し占守、東瑞國端境に上陸し、九月二十六日本據片岡湾に到着す、茲に於て會員一同の評議を開き大部分本據引揚げに決定し、九月二十九日郡司家族一同及會員並に婦女幼児合計五拾六名澤崎丸、報效丸、占守丸の三艘に分乗し經營惨苦の本島に離別し別所佐吉及其家族、所三造及其

家族、磯野、長尾、中村、浸辺、三島等合計十五名の残留者のみとなれり。

其後北千島の開発閑却せられたる感ありしが、明治四十二年根室郡の人兼吉萬吉千島興業株式會社を興し、又同年磯澤男爵委員長となり大日本遠洋株式會社を創設し、青木大三郎氏等日本漁業株式會社を設立し相競て鱒漁業を経營せしより世人の注目を引くに至り今日に及ぶ。

行政

千島國は八郡六ヶ村より成り得撫、新知、占守の三郡は根室支廳直轄地にして未だ町村制の実施なく其他に於ては明治十三年國後島泊に泊外四ヶ村戸長役場を開設せられたるを以て端矢とし、爾来幾多の変遷ありて大正十三年四月一日泊村、留夜別村、斜古丹村、留別村、紗那村、蘂取村に北海道二級町村制を施行せられ、昭和八年十月一日斜古丹村を色丹村と改め今日に至る。

一、行政区域及沿革

國後島國後郡（泊村、留夜別村）明治十三年七月四日泊外四ケ村戸長役場開設、同二十六年留夜別及秩苅別の二村より裂きて大瀧村を置き、同二十八年乳呑路に留夜別村外一村戸長役場を新設して留夜別、大瀧の二村を合轄統治せしめ大正十二年四月一日北海道二級町村制を実施し泊村役場並留夜別村役場と改め現在に至る。

擇捉島（擇捉郡別村、紗那郡紗那村、蘂取郡蘂取村） 明治十三年振別外三郡役所を置き根室縣に隷し同十七年有始めて蘂取村外一村戸長役場を設置し、同十八年振別外三郡役所を紗那外三郡役所と改め紗那に移す。同時に振別外四ケ村戸長役場を開設せられ紗那外三郡役所の所管となり、同十九年振別外四ケ村戸長役場を留別に移轉す。同三十年十二月紗那外三郡役所を廃し紗那支廳を置き全島を統治す。同三十六年八月紗那外二村戸長役場開設せられ次で同年十二月紗那支廳廃止其所管を根室支廳に合す。大正十二年四月一日北海道二級町村制實施し擇捉郡留別村役場、紗那郡紗那村役場。蘂取郡蘂取村役場に改め現在に至る。

小樽經濟専門學校

色丹島色丹郡色丹村 明治二十七年七月斜古丹戸長役場開設大正十二年四月一日北海道二級町村制施行し斜古丹村役場と改め更に昭和八年十月一日色丹村と改正。

得撫島得撫郡、新知島新知郡、幌筵島占守島占守郡、根室支廳直轄地とし未だ町村制の實施なし。

二、戸數及人口

昭和八年十月一日現在千島列島に於ける戸數及人口左の如し。

町村別	戸數	人口 男	人口 女	人口 計
泊村	八二六	二、五六八	二、一〇五	四、六七三
留夜別村	四二一	一、二九九	一、〇六九	二、三六八
色丹村	一六九	五六五	三八八	九五三
紗那村	二七二	一、三四七	六〇九	一、九五六
留別村	四三三	一、五七〇	九七九	二、五四九
蘂取村	一一六	一、一三二	二〇五	一、三三七
得撫郡	五	一一	八	一九
新知郡	一四	一八	一三	三一
占守郡	二八	四二九	二〇九	六三八
計	二、二八三	八、九三九	五、五八五	一四、五二四

小樽經濟専門學校

（三、官公署及其他の道路延長）

斯くの如く認定道路の延長相當多數の里數を算すれども未開墾にして全く未開時代の山道或は小徑路なるもの多く隨て荊棘繁茂通行困難を極め殊に各河川の架橋十數を除くの外は不完全のもの多く若は全く橋梁を存せず・馬匹にすら辛うして通行し得るに過ぎず各村部落間に於ける物資運輸は船便にのみ依る外）箇所と少からず・又人口稀薄にして旅行者少く從て人馬の継立又は旅館を営業とする者殆んどなく官設驛遞所は少極少くべからざる機関なり。

各村別驛遞所數左の如し。

郡村別	國後島			擇捉島							擇捉島	合計
驛遞所數	泊村	留夕村	小計	色丹島	色丹村	留別村	紗那村	蘂取村	小計		恵登呂村	立湾
八	六	二	四	四		七	二	四	一三		一	三二

北千島に於ては土地僻遠にして季節的にのみ數の漁夫の入り込むの外全千島に越年するは僅に約二十名の漁舎番人に過ぎず未だ全く未開の狀態に在り。元より道路として認むるもの無く全く原始的狀態なりとす。唯遠々相互漁舎間を通ずる既往數年間に於ける人跡に過ぎず。即ち海濱砂礫を傳うて河川を

渡渉するか若くは山麓急坂或は斷崖渓谷を縫合して轉蹟攀登僅に定通をなし得る程度のものなり。若し夫れ深山樓・腰松の密林を通過するの如きは其の困難名狀すべからざる狀態にして陸上交通は全部將来の施設に俟たざるべからず。

現在の交通にて干潮時を利用し或は岩角を攀登る等にて僅に通じ得るは加藤別以北最も長きに達す。即ち袴腰嶽の山麓懸崖の處を以て地理に通ずるものを先達とするに於ては村上湾を経て柏原湾に達し得ると云ふ。

南海岸に於ては疊山附近の一部及轉川以西轉川に達する間及野田湾・千歳湾より武藏湾の一部に達する間は徒歩可能なるも他は全部海路によらざるべからず。

三、通信及航路標識

南千島は各島略通信の設備普きも北千島に於ては幌筵島の東隅泊（古守郡豊山）に幌筵無線電信局あるのみ・本局は札幌郵便局の管轄に屬し一般船舶の通信に應ず・通信期間は夏期のみにして毎年五月十日頃より九月廿日頃迄執務す。

燈台　北千島に於ては航路標識として設置せられたるもの。十島列島中の燈台としては僅に国後島南端計羅武威埼及同北端安渡移矢岬に各一基あるのみ左の如し。

計羅武威燈台　白色六角形鉄造、第二等、閃白光毎秒三十秒に一閃光、光達二一・五浬、霧笛毎分を隔て五秒吹鳴す。

安渡移矢燈台　黒白横線八角形木造、第五等、閃白光毎秒五秒に一閃光、光達一三・五浬、霧鐘毎一分に十二回打鳴す。

産業

千島列島沿海は漁族頗る豊富にして任長の聰ては漁業を以て生計を樹て耕作とては僅に自家用蔬菜の栽培をなすに過ぎず。又僅ら馬匹の生産育成を努むるものあり。これ等は良駿逸足を目的とするものにあず多くは実用馬を産し成績見るべきものあり。

水産物の主要なるものは鮭鱒定置漁業の漁獲にして近来は甚未遂歳により豊凶著るしき差ある為め追々射倖的産業化せんとする傾向あるは遺憾なり。

速かに漁業根據地を各地に設け沖合進出の急なるを認む。又陸地は殆んど放置の状態に在るにより之が利用に付いては土地の選定調査を行ひ利用區分の面積を明かにし陸上産業振興の方策を樹立するの必要ありとす。

一、水産

千島列島は寒暖二潮流に洗はる。寒流は即ち親潮にして「ベーリング」海を経て露領堪察加の東海岸に沿ひ列島の太平洋側を南下し遠く金華山沖に達するものにして暖流は對島海流にして朝鮮海峡より日本海に入り北上し宗谷海峡を迂回して知床岬に至り更に列島の西海岸に沿ひて北上するものとす。斯の如く潮流交流錯綜するを以て水族極めて多く、世界三大漁場の名に背かざるものあり。本島の漁業は年に依り豊凶を免かれざるも概して豊漁を持續し来りし状況なり。最近五ヶ年間に於ける生産額は、

年次 / 種別	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年
漁獲高	二、八五一、八四三円	五、八三三、九八二円	二、一五九、一三八円	二、七九六、七九八円	二、〇七六、六四九円
製造高	三、六五八、九二二	六、五八四、九六一	二、四八六、一一八	二、八〇八、四八五	二、〇八七、七一九
罐詰製造高	四、五八七、二三五	一、八〇八、九六九	一、五二四、四九一	九八四、八〇〇	一、〇一三、八八五
合計	三、〇九七、九八九	一四、二二七、九一二	六、一六九、七三八	五、九〇、〇八三	五、一七八、二五一

内主なるものは鮭、鱒、鱈、昆布、海扇、たらば蟹、北寄貝等にして、就中北千島の鱈國後、擇捉二島の鱒最も盛なり。而して千島列島を圍繞する海棚百尋線までの浅海は南方は北海道本土のそれと連接し北方は露領堪察加の大海棚と接續して約壹萬平方理に及び鱈、鰊、鮭、其の他の底棲異族並に貝類藻類等豊饒なるのみならず此の區域は本邦重要水産物たる鮭鱒族の主要なる洄游區域に當り殊に露領堪察加方面に於ける鮭鱒奥道に當るを以て漁業上頗る注目に値するものにして更に將来に於ける漁業発展の基礎たり得べき唯一の地域なりとは衆目の一致するところなり。

今便宜上南部、中部、北部を区分して水産業の概要を記述す。

一、南部千島の水産業

南部千島は地形上ずるも本道本土と密接なる関係にあり其の所産する水産資源は千島列島中随一にして古く松前藩の時代より已に漁業地として著名なりし地域に屬す。然るに最近に於ける水産狀勢は（続計略）

水産物中の主なるものは鮭、鱒、鱈、海扇等にして擇捉島の鱒國後島の鱈及海扇は最も盛なり。水産養殖事業は明治二十三年擇捉島富路鮭鱒孵化場開設せらるるを始めとし現在に於ては拾六ヶ所の孵化場あり其採卵數量壹ヶ年に鮭壹億萬粒、鱒参千八百萬粒、合計貳億壹千萬粒に達し毎年鮭鱒漁業の隆盛を期せられつつあり。水産製造業は塩蔵品及罐詰製造を主とし適々冷凍業起りんとす持續するに至らず、又水産團体としては郡水産會に漁業組合八あり人工孵化事業、漁業取締、共同購買、資金貸付、昆布磯造成等を行ひ漁村の振興発展に努めつゝあり。而して更に各島別に之を觀るときは、

國後島

本島中最も重要なるは鹽及海扇漁業にして鹽漁業は明治三十六、七年頃より勃興し米國輸出向罐詰製造を主とし現在製造工場數拾壹箇所、所屬漁船數參拾五隻あり、其の製造高は普通壹萬五千函乃至拾五萬圓内外にして昭和二年の豐漁時に於ては貳萬參千七百函、八拾七萬圓に達せり。海扇漁業は根室、十島両國に於ける重要水産物にして其の産額は両國を通じて壹萬函、八拾萬圓以上を算し、往年の豐漁時に於ては貳萬函、貳百參拾萬圓を揚げたることあり。内本島の産額は少きは千函より多きは七千九百函に及び對支貿易品として著名なり。鮭鱒漁業は主として沿岸定置漁業に依るとのことなり。其の各年の着業數は凡そ百ヶ統内外なり。近年稍々不振の狀態にあると昭和四年の如きは豐漁を示し、鮭十七百石、鱒六千石の漁獲を見たり。漁獲物の多き塩藏をうけたるも近年罐詰製造するもの増加し現在工場七ヶ所あり、其の他鱈、鰰、鰊、氷魚、公魚、北寄貝、蝦夷、塩鮭、海鼠、漁業及海藻としては昆布、海蘿、銀杏草等あり。

擇捉島

本島に於ける漁業は主として鮭鱒定置漁業に依るものにして、他に鹽刺網漁業、鱈延縄漁業、鰤定置漁業及珠藻業等存するも鮭鱒漁業に比較し其の生産高極めて僅少なり。

鮭鱒漁業は往時高田屋嘉兵衛請負の頃已に鱒年産壹萬五千石、鮭參千五百石の漁獲ありて本道中重要なる生産地なりしが、其後亂獲の敵を生じ奥群減退の徴顯著となり産額著しく減少せるを以て現在に於ては之が回復の為め漁場整理を為し漁獲高を制限せるのみならず人工孵化場の設置並に保護河川の制定等積極的に蕃殖保護の途を講じたる結果近年概して豐漁を持續し年産鮭五千石、鱒五萬石を普通とし豐漁の際は鮭壹萬四千石、鱒拾六萬七千石に達したることあり。

漁獲物は塩切或は罐詰に製造せらる、罐詰業の発達は本島水産業の一特質にして明治十一年開拓使廳に於て紗那罐詰所を設置経営し外人技師を

聘して罐詰技術者を養成せる結果罐詰業は本道本土に見るる発展を為し現在同島には拾ヶ工場の開設あり。其の昭和八年度に於ける製造数量拾壱萬五千函價格百九拾萬圓以上に達せり。

色丹島

本島は開島以来水産を以て唯一の産業とし、鱒及昆布を主たる産物とすれども同島沿海一圓は輸出向き大鮭の好漁場に當り、大正高年氷室組に依り漁業経営せられ一隙は其の漁獲高拾壹萬貫弐拾餘萬圓を算しる事あり。本漁業は冷凍方法其の他不完全なる点多ありたる為め失敗に歸し、一、三年後中絶せられたれども更に研究を要する價値あるものなり。又本島は各地に天然の良港湾を有し夏季より秋季に至る間北海道太平洋岸を漁場とする鱒漁船及秋刀魚漁船の根據地として好適にて昭和八年に於ては數百數拾隻を算したりと稱せらる。

二、中部千島の水産業

中部千島は函館の人栖原角兵衛が明治高年得撫島床丹に漁場を開き鮭鱒

の漁獲を為せしを嚆矢とし、爾後大正の初年に至る迄得撫新知温彌古丹の諸島に於て鮭鱒蝦其の他の雑漁行はれたり。即ち得撫島床丹湾に於ける漁業は栖原角兵衛経営の後を受けて根室国柳田藤吉明治四十三年迄之を継續営業せり。又擇捉島留別村本間要蔵は明治四十五年鐘湾及「アイムイ」湾にて鱒漁業に従事し、同四十五年迄継續し同時に同地沖合に於て鱒漁業に従事せり。新知島に於ては明治四十四年函館市大山伊作なるもの同市平出喜三郎の出資に依り新知湾に於て川崎船五隻、人員約八拾名にて鱒漁業を為しれるを始めとし、同年根室国中村菊蔵は漁夫三十四名女工拾名を以て蝦漁業を為し翌四十五年も之に従事せり。温彌古丹島に於ては明治四十四年根室国千島興業株式會社に属する板倉權助、坂本文太郎、彦坂文吉の三人に依りて川崎船四隻、男女計五拾名人にて同島西海岸を漁場として鱒漁業行はれたり。

以上は沿革の大略にして其の後漁業に着手するものなく従て漁業價値につては明確に之を論じ難けれども、要するに其の主要魚族は鮭鱒族、鱈、鰯

鰹、氷魚の類、蝦、蟹、大軟及海藻にして是等に対しては未だ詳細の調査無く
已往の記録に依りこれを推するの外なしと雖も従前の漁業盛大ならざりし所以は漁
業價値の乏しき結果にあるべしと航路不通の為め漁業経営に便宜なかりしと
貴重海獣保護の為め着業の自由を失ひたることも一因なりと推定せらる。
本島の漁業は他の諸島の業績より推定するに鮭、鱒、鱈、ならば蟹、鰯、
氷魚、油子、鯖等何れも漁業の目的たり得べく鰹、鮫、の如き沖合の中層に
徊游する魚族は将来有望の漁業なるべし。海藻業も稼行の價値あるべきは沿
岸視察者の等しく認むる所なり。
之を要するに千島の水産業は未知に属するものなきを以て他日の調査に待つべき
ものなり。

三、北千島の水産業

一、現在の水産業

明治三十六年報效義會は漁業開発の目的を以て占守島に渡航したるも、當時

は交通極めて不便なりしのみならず漁獲物の價値低廉なりしため所期の好果
を結ばず、次で明治四十年頃千島興業株式會社の事業開始を見しより漸次
世人の注目する處となり、次第に鱒漁業及蟹漁業の経営者續出し遂年
隆盛に赴きし際、恰も世界大戰の勃発による経済界の好況と対外貿易の進
展は同島漁業をして躍進的発展をなさしめ、大正八、九年頃、最好況時代を
現出し總額凡そ百参拾七萬圓を算するに至れり。此の時代に於ては沈土の價格も
亦昂騰せるを以て昆布及製造の為め幌延島東岸へ約三千人の渡島者ありたり
と稱せらるゝも其の狀況詳ならず。統計に明示せらるゝは大正五年に於て昆布
及二千七百噸價格も壹萬五千餘の生産を見たる記録あるに過ぎず。其後
本島の漁業は大戰の終息と共に経営困難に陥るもの續出し事業著しく衰退し
大正の末葉最も不振なりしが、後経営方法の改善に依り昭和三年頃より再び
生産額増加の傾向にあり、業績次第に回復し最近に於ては相當堅實なる道程
を辿りつゝあり。而して此の間に於て昭和三年には幌延島を根據とする機船

底曳網漁業に依り專ら雙類を漁獲し魚糧製造に着手せるもの壹隻あり、更に四年に至りて阿賴度島及慢延島西海岸を根據として海扇（後日カネを錦分なる）を判明せり）を目的とする機船底曳網漁業三隻増加せるも何れも良果を擧げ得ずして中絶せり。又昆布、ふのり、きんとんそう、ムラのり等の海藻採取或は河川浜上の雙類採捕は副業的に鱈及蟹漁業従業者に依り行はれつゝありたるも何れも生業ほどなるものなし。

(二) 昭和八年度現況

昭和八年度に於ては雙類沖取漁業の勃興に依り劃期的発展を為し其の生産總額は凡そ弐百七拾餘萬圓に達せり。而して従来本島に於ける生産額は年々鱈、蟹、雙類合計總額百拾萬圓乃至百参拾萬圓なりしに八年度に於ては新規勃興の雙類漁業に於て約貳百五拾餘萬圓の増産を為しれる為め其生産額は前記の通例年の三倍に相當する結果となれり。漁業従業者其の他も之に從て増加し例年の渡島者は千六百人乃至千八百人なりしに八年度

は四千百参拾五人となり、漁船は従来八拾隻（動力船）内外なりしに八年度は二百五拾二隻となり何れも激増を示せり。今其の概況を示すに

漁業別着業件數

雙類流網漁業	動力船	一七一隻
鱈延縄漁業	動力船	七一隻
鱈一本釣漁業	無動力船	四隻
蟹刺網漁業	動力船	九隻
雙類定置漁業（堤詰工場）	動力船	七隻
漁業別投資概算		
雙類流網漁業		八ヶ統
鱈延縄漁業		五ヶ所
		一、一〇〇、〇〇〇圓
		五七〇、〇〇〇圓

鱈一本釣漁業	五〇、〇〇〇圓	五〇人
鰹刺網漁業	六〇、〇〇〇圓	三六〇人
鮭鱒定置漁業	二〇〇、〇〇〇圓	六五〇人
（罐詰工場）	七〇〇、〇〇〇圓	
計	二、六八〇、〇〇〇圓	
漁業別生産額概算		
鮭鱒漁業	二、五七八、〇〇〇圓	
鱈漁業	八六一、〇〇〇圓	
鰹漁業	二七八、〇〇〇圓	
計	三、七一七、〇〇〇圓	
漁業別出稼人員概算		
鮭鱒流網漁業	一、八〇〇人	
鱈漁業	一、二四〇人（外ニ鮭鱒流網兼業者アリ）	

鰹漁業	五〇人	
鮭鱒定置漁業	三六〇人	
罐詰製造業	六五〇人	
計	四、一〇〇人（内女二〇九人）	
備考 漁業関係者以外ノ渡島者三十人程アリタリ		
各種類別漁船數		
動力船	二五一隻	
川崎船	一六隻	
三半船	八六隻	
磯舟又ハ傳馬船	四九六隻	
計	五四四隻	

鮭鱒流網漁業は夙に有望視せられ昭和五年以来北海道水産試驗場卒先し本試驗に従事せる結果好漁場を発見し漁業成立の見込立ちたるを以て翌年十

月には従来鮭鱒漁網漁業の禁止区域なりし北千島を開放して許可指定区域に編入し出漁希望者に対し九拾二件許可せられたるも實際出漁せるは僅かに六件にて而も其の經営多くは鱒漁業兼営にして極く小數の漁具を用ひ且つ短期間の出漁に過ぎざりしを以て其成績見るべきものなかりき。然れども同年度に於ける水産試験場の試験成績は極めて好結果なりしを以て八年度に於ては出漁希望者續出し許可出願せるもの八百件の多數に上りしも道廳は二百隻を限り許可し内出漁せるもの百七拾壹隻に達し何れも豫期以上の成績を挙げたり。

其の漁獲状況を示せば、

奥種別	総漁獲高 尾数	総漁獲高 金額	壹隻當り最高漁獲高 尾数	壹隻當り最高漁獲高 金額	壹隻當り平均漁獲高 尾数	壹隻當り平均漁獲高 金額
紅鮭	八四七、〇〇〇	五〇八、七二二円	一三、五九四	七、九七六円	四、九五三	二、九七一円
白鮭	一、六三五、五〇七	二四五、三二五	三八、九七九	五、八五五	九、五六四	一、四三四
鱒	二、五二、八二二	一五〇、七一四	三五、五四六	二、一三二	一四、六八九	八八一
銀鮭	五五、二〇六	一三、八〇一	四〇九	一〇二	三二三	七〇

計	五、〇五〇、五五五	九一八、五六二	八八、三五八	一六、〇六五	三六、五二九	五、三五六

漁獲物の處理は播鉢湾三箇所、村上湾及村上崎各一箇所の罐詰工場に於て罐詰に製造せるもの外、運搬船に依り統別、調走、釧路、根室及青森市に於て紅鮭及鱒の罐詰を、白鮭及罐詰材料外の鱒は漁場に於て塩蔵せられ又は鮮魚のまゝ冷蔵輸送せられたり。而して今上表の漁獲に付生産額を概算するに（下表には定置漁業による漁獲を追加す）

奥種別	漁獲高 尾数	生産数量 罐詰	生産数量 塩蔵其ノ他	生産数量 罐詰	生産価格 塩蔵其ノ他	生産価格 合計
紅鮭	八六七、〇〇〇尾	六三、一六六	一五、〇〇〇尾	一、五五四、一〇〇円	九、五〇〇円	一、五六一、六〇〇円
白鮭	一、六三二、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一、五三二、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	三四五、〇〇〇	三四五、〇〇〇
鱒	三、六六五、〇〇〇	四三、三三四	一、九八八、〇〇〇	四六五、六〇〇	九九、四〇〇	五六五、〇〇〇
銀鮭	五〇、〇〇〇	三、三六六		五七、〇〇〇		五七、〇〇〇
計	五、二四四、〇〇〇	一二七、八六六	三、五三五、〇〇〇	二、二二六、七〇〇	三五一、九〇〇	二、五七八、六〇〇

鮭鱒定置漁業は古くは僅かに着業せられたるも八年度に於ては本

格的に八箇統の着業を見たり。而して其成績未だ良好なりとも東川漁場の如きは紅鮭六千尾、白鮭壹萬五千尾、鱒九萬六千尾、銀鮭八百尾、計拾壹萬七千八百尾の漁獲を為し將来の經營方法如何に依りては相當の成績を見るに到るべし。

(三) 將来の水産業

將来に就ては各人所見を異にすると雖も蟹及鱈漁業の如き已成漁業に対ては經營方法の著々改善せられさるに於ては大なる発展を期し得べからず。若し其の規模を大にして堪察加沿海に近接操業区域を擴張する場合に於ては更に數倍の増收も難からざるべし。又新興の鮭鱒流網漁業は更に急速なる発展を豫想せられ明年度以後に於ては倍加以上の生産額を擧げ將来壹千萬圓以上に達すべしと為す者あるは強ち根據なき架空の説にあらず。即ち着業船數の増加、漁船設備の改善、使用漁具數の増加、出漁期間の延長、操業技術の進歩或は罐詰工場の増設は漁獲高増加と共に向上を招

来するに至るべし。鮭漁業は一昨年来北海道水産試驗場に於て試驗中のものなるが同地の鮭は所謂索餌洄游のものにして奥群極めて濃厚なるのみならず奥体頗る肥満し脂肪に富み欧米に於てフラット・ヘーリング」と稱するものに屬し、而して其の形態大なるを以て英國に於ける最高級品たるマジエスティック・ヘーリング」に次ぐ其の最も珍重する種類に屬するを以て本品は満支或は進んで欧米輸出向として好適なるにより鮭鱒漁業すると更に有望なるべしと唱道する者あり。又海藻類殊に猫足昆布、御幣昆布、千島海苔、海藻、銀杏草等は頗る豊富なるにより之が採取利用は本島に於ける富源を増加せしむることなるべきのみならず、其他のみを錦介、大鮃等の貴重なる水族は冷凍業の発達に從て冷凍輸出の賞なり得べく、鮭其の他底棲奥族の餌多は奥糧製造業の発達を誘致すべく、更に調査試驗の結果或は他の奥族の棲息洄游を発見することなきにあらざるべし。

(四) 北千島を根據地として進出発展すべき漁業

以上記述せるは北千島近海に於て生産せらるるものみに就てなるが、尚本島を根據地とし將来勃興せしむべき漁業と認めらるるものは

(イ) 「トロール」漁業及底曳網漁業

堪察加東西海岸に於ける廣大なる海棚に棲息する底棲生物は頗る饒多にして蘇邦は已に「トロール」漁業の操業を開始せる現狀なれば我國に於ても北千島に根據を置き本漁業の經營をなすは最有利なる漁業の一なるべし。

(ロ) 鮭鱒沖漁業

北洋に於ける鮭鱒沖取漁業は現今隆盛を致せりと雖も其の經營を最も経濟的ならしむるには北千島に漁業根據地を設け、漁獲物加工料金の大なる船内處理を廃し低廉なる陸上處理を爲し企業の合理化を計る必要あるべく、將来北千島の沖取漁業と合流し以て理想的經營方法に進むべき必要を認むるものなり。

(八) 鱈漁業

堪察加東西両岸に鱈の豊饒なるは已に周知の事項にして現在六、七隻の出漁船を見るも対支貿易の不安並に内地製品の暴落は本漁業の発達を阻害しつゝあるも、目下欧米に於ける鱈産額減少の爲め南米地方への輸出額年々減少の傾向を有する時なるを以て北千島を根據とする本漁業の進展は極めて有利なる地位にあり。

(九) 介類漁業

かみを錦介類は三、四十尋より五、六十尋間に棲息する有用介類にして未だ其の分布に関する調査せるものなきも「オコツク」海の棚に於ける分布及棲息の數量は相當豊富なるべしと推定せらる。而して本族は海扇に類似せる肉柱を有するを以て冷凍に依る欧米輸出は海扇の代用品として有望にして將来之が漁場を闡明せらるゝに於ては北千島の輸出水産物として発展の素地を有するものなり。

（ホ）鰊漁業

鰊魚群は北千島沖合より堤察加「オゼルナイ」沖合に亘り頗る濃厚に来游するを以て北千島の本漁業と相関連して頗る前途ある漁業なるべし。

二、農産

國後島は比較的氣候温和にして肥沃の平原少なからざるも現在に於ては寡業農家僅かに數戸に過ぎず、將来交通運輸の便開け道路の開鑿其他社會的施設の充實に伴ひ漸同農業經營可能の時期到来すべし。色丹島に於ても農耕適地多きにあらざるも住民稀薄にして之に従事するものなし。擇捉島は國後島に亜ぐ氣候温和なるも起伏多く平坦地乏しく且住民稀薄にして農業を主業とするものなし。

得撫島以東中部千島には農林省の養狐事業に従事する傭人越年するに止り又北千島には漁業者の留守番人極めて少數越年するに止り何れも農業に土地を利用するものなし。

南千島に於ては漁業の傍ら自家用蔬菜類を栽培し或は畜産に従事するものに於て極めて小面積の燕麦作物を為し又牧草を栽培せるものあり。甚成績比較的良好なるも漁業者の多くは土地を有せざるものにして蔬菜類を府縣又は内陸地方より移入する現況なり。依て之等土地を有せる漁民に蔬菜の栽培を為さしむる方法を講ずるに於ては漁村經濟の改善上裨益する所甚大なるものあるべし。

其他大麦、燕麦、大小豆、菜豆、豌豆、甘藍、蔬菜類を小地区に亘り栽培し相當の成績を擧げつゝあるものあり。

國後、擇捉、色丹の土地の大部分は國有林に屬するも陸地産業開発上速かに土地の利用区分を調査し農耕地は之を開放して利用を促進する必要あり。又國有林に対しては施業案を樹て営林政策を確立するを急務とす。

三、畜産

イ、牛馬　馬は現在國後島には二、五五〇餘頭、色丹島には一八〇餘頭、擇捉

島一八六。餘頭飼養し、國後島には一ヶ年五〇。餘頭、色丹島には二〇。餘頭、擇捉島には一八〇。餘頭の生産を為しつゝあり。之等の馬匹は南部馬改良の土産馬を移入し漸次改良したるものにして國後島最も進み本道一流馬産地と略同一の程度に在り。其体形地低四肢堅牢体幅あり、歸質良く極めて強健にして粗飼養に堪へ、賓用に適す。馬は四季を通じて放牧するも良馬は冬期間舍飼を為し擇捉、色丹に在りては巻馬式蕃殖を為す、狀態なり。

牛は現在國後島九〇。餘頭、擇捉島一八〇。餘頭を飼養し居れり。種類は短角系の雜種にして島内の乳肉需用を満たす程度なり。夏は放牧育成し冬は舍飼を為す。製酪を為すものは擇捉島紗那村に松田牧場あるのみなり。

而して馬匹の主産育成は事業のもの極めて少く漁業家が傍ら馬の主産に従事せるものなるを以て今後優良種馬の配置、種付所の整備、育成技術の改善、飼料作物の栽培、共同放牧の設置等馬産の改良上必要の施設を行ふは産業の振興上適切なりとす。

ロ、養狐　色丹島は野生の狐を禁獵し蕃殖保護しあり。中部千島に大正五年より農林省水産局所管の許に中部以北に於ける臘虎、膃肭獸保護の附帶事業として放牧式養狐事業を経営し土産中の優良狐銀黑、十字紅等を保護し別に大正五、六年に亦り露國より育狐（露西亞育と呼ぶ）五番の寄贈を受け蕃殖を保護したる結果目下約二〇〇頭に達す。新知島、武魯頓諸島得撫島、色丹湾には金網柵飼の種狐養成場を設け之より産する優良狐を各島に放物して改良増殖を計り北千島各島には野生の狐を産し毛質優良なりと稱せらるゝも各漁場番人等の為に盛獵せられこの儘放置するに於ては數年を経ずして絶滅に歸するに至るべく、相當期間禁獵とし自然の繁殖を保護せば成績見るべきものあるに至るべし。

四、林　産

原始林又は天然原野の存在する程度　國後島は全面積の内その五十パーセント、は原始林にして十パーセントは原野狀態、残四十パーセントは風倒又は一度伐採

の入りし結果疎林狀態を呈す。擇捉島は全面積の内その五十「パーセント」は原如林、五「パーセント」は原野狀態、二十「パーセント」は既往に於ける虫害、風害、人爲的の伐採等により林相著しく疎開せられ殘餘の二十五「パーセント」は連山の上部筋又は風衝地帶に當り偃松若くは矮林限界の未立木地に屬す。北千島に於ては偃松帶にして其地積の一割は原野狀態に屬し高山の上部は偃松帶を突破し無立木の狀態を形成す。

原始林の林相又は天然原野の種類　國後島に於ては椴松、蝦夷松の混淆林又は椴松の純林をなし少量の濶葉樹を混ずる。而して濶葉樹の主なるものは「ミヤマハンノキ」「やまはんのき」「ちしまかんば」の外少量の「ちしまら」「せんのき」「やちだも」「きはだ」「やまぶ」類を混じ灌木「いもつげ」「にすこ」「しゃくなぎ」等にして東部原野には「ちしまさくら」多し。擇捉島は南部に於ては椴松、蝦夷松の針闊混淆林、中部は色丹松（ぐいまつ）の針闊混淆林又は濶葉樹にして其北部は主として濶葉樹林を形成し樹種は國後島と大同

小異にして、北部に至るに隨ひて「かんば」「ちしまかまど」「はへつき」等の量增加す。而して連山の上部は偃松帶又は森林限界外の無立木地なり。北千島に於ては林木は樺松「はへつき」「ちしまかまど」等生育すること甚に寒風に吹き曝されること以て谷筋及無風地帶以外は何れも其樹高四米以下に止り幹四多枝地面に匍匐し且つ「やくまぶ」「やまぶ」屬の小灌木及高山植物は水平的に分布するの狀態なり。

野生樹木の利用せらるゝもの又輸出の有無　針葉樹は主として漁民の船材及自家建築用材として利用せられ偃松、針葉樹の不良木及濶葉樹は總て燃材に供せらる。然るに千島列島は元来極限せられる地積にして蓄積に限りあるを以て主として上記自家用材の補給に資するに止め輸出を行ふ程度に達せず。

千島國の國有林は國後島一圓を國後営林署、色丹島並擇捉島以東占守、阿頼度島に至る各島は根室営林署、擇捉島一圓は紗那営林

区署に於て管轄す。而して國有林の施業案編制済の面積は國後宮林区署所轄に於て九萬二千九百五十歩を有するに過ぎず。民有林に於ては施業案の編制したるものなきのみならず未だ一般に造林事業の経營をなすに至らざる状態なり。

イ、國有林

泊村			五〇、一六五町
國後宮林区署管轄	留夜別村		一三五、四三三町
計			一八五、五九八町
留別村			一五九、〇七八町
紗那村			七八、九二七町
紗那宮林区署管轄	蘂取村		一一五、九一五町
計			三五三、九二〇町
根室宮林区署管轄	色丹村		二五、五五八町
得撫郡			八二、〇七九町
新知郡			六五、〇二七町
中部千島以東	古宇郡		三〇二、三四三町
計			四五〇、四四九町
合計			一、〇一五、五二五町

ロ、民有林　民有林は國後島泊村に四町六反歩、擇捉島留別村に十九百二十六町六反歩、紗那村に三町七反歩、蘂取村に五百七十三町五反歩、合計二千五百八町四反歩に過ぎず。之れ國有林として保存せらるゝ結果なり。

ハ、林産物　昭和七年に於ける林産額を示せば左表の如し。

村別	民有林 用材	民有林 薪炭	民有林 其他	民有林 計	國有林 用材	國有林 薪炭	國有林 其他	國有林 計	計 用材	計 薪炭	計 其他	計 計
泊村	一円	一円	九七円	九七円	五七、五七〇円	四、七九一円	一七六円	一四、五三七円	一、〇一五、五二五円	一、九四九	七九円	一、〇〇七、四四〇
留夜別村	一、五八	一、六六三	一、〇〇七	四、三三七	三一、九二四	四、八四七	一、〇〇七	五九、四三六	五三、五八三	四、八四七	一、〇〇七	五九、四三六
色丹村	一	一	八七四	八七四	四七一	一、四七八	八七四	三、〇二三	四七一	一、四七八	八七四	三、〇二三
留別村	六、三三七	三、五二二	九七七	一〇、八三六	四、九二二	二、八四九	九七七	八、六〇七	一二、三五九	六、三七一	九七七	八、六〇七

紗那村	一	一	一、七八二	一、七八二	一六二	二、七〇五	五〇八	三、三七九	一六二	二、七〇五	二、三九〇	五、一六一	
蘂取村	二	九八一	一、〇五〇	二、〇三三	二四	八六一		八八五	二六	一、八四二	一、〇五〇	二、九一八	
北千島	一	一	一	一	一	五八一	一	五八一	一	五八一	一	五八一	
計	七、九九七	六、二六五	五、七八七	一九、九四九	七七、〇七七	一六、四五〇	五八七	九四、二四	八五、七四	三三、六一五	六、三七四	一二四、〇六三	

備考 北千島に於ては用材及べき樹種を産せず僅に樺太を以て唯一の薪材とするに過ぎず

之れ國土保安上重要視すべき方針なり其他は雑草、柴、葭、樹實、湯の花等にして村別に調査せず

資料は千島以下管林区署別とせり

五、鑛業

千島國の鑛業は試掘鑛区としては金、銀、銅、鉛、亜鉛、硫化鐵、硫黄鑛

國後島二七箇所、擇捉島硫黄鑛一箇所、珠振鑛区としては硫黄鑛國後及擇捉島に各四箇所、砂鑛、国後及擇捉島に各一箇所を有す、内譯左の如し（統計略）

現在出願鑛区

現在出願鑛区は主として金銀銅、硫黄にして約百箇所に達す。昭和四年頃より金銀銅の出願數頗に増加を見るに至れり。

六、今後の施設概要

（イ）漁港築設及道路開鑿

南千島は既述の如く多額の水産物を挙げつゝあるも未だ何等の漁港施設なく殊に近時漁船は発動機付に変り、現在の沿岸漁業より漸次沖合へ進展の機運にあるも根據地たるべき漁港の築設なき為め積極的の進展を遂げ得ざるのみならず又冬期間數箇月島外との連絡全く杜絶せらるゝ狀態なるにより速に漁港を築設し産業の発展に資すると共に冬期間の交通及物資輸送の確實を期する必要あり。

尚各島内道路は何れも不完全なると且つ橋梁を存せざる河川あり各部落が交通すら容易ならざる路況なるにより速かに道路を整備し交通の安全を圖る必要あり。

北千島に於ては幌延島より播鉢湾に大漁港を築設し廣大なる北洋海棚

開発の前進根據地として各種漁業工場の用地を備へ大漁村を建設するの外、各地に小漁港を築設して近海漁業の根據地を設け漁村を建設し斯業の発展を期するを要す。

(ロ) 避難港の築設

難航路たる千島航路にありて北洋往復小型機船に対して中部千島に避難港を築設する要あり。即ち新知島武魯頓諸島北千島及北海道本土との略中央に位し其の天然の良港形を利用して避難港としての施設を為すを要す。

(ハ) 航路標識の設置

國後島安渡移矢崎以北には一基の燈台も有せず航海極めて不安なる狀況なるにより千島全部に亘り各要衝の地点に適當なる航路標識を設くること緊要なるものあり

其他北千島に特に急施を要するは

(三) 警察機関の充實

北千島は未統的の開発計畫の實施せらるゝと否とに拘はらず年歳多數の漁業従業者の渡島あると共に漁業稼行上蘇邦に対する國際関係極めて機微を加ふることあるにより速に警察機関の充實を計る必要あり。

(ホ) 通信機関の充實

現在幌筵島壐山に無線電信局あるのみにして年歳多數の漁業従業者の渡島あるにより本土との通信は勿論、海陸路共交通不便なる島内相互間に於ても通信機関の増設を要するものあり。

(ヘ) 漁業工業地の計畫及道路開鑿

大漁港の築設と共に統制ある漁業工業地を計畫し従来の不経済なる工船式漁業を陸上の作業とし漁場と製造とは経済的分業組織たらしむること又各漁港連絡の道路を開鑿し交通の便を計るを要す。

(ト) 河川調査

幌筵島各河川に就き飲用或は工場用水として其水質試驗を行ふと共に

発電調査を施行し河水の経済的利用方針を確定することを要す。

(子) 水産試験場設置

幌筵島の適當なる地に水産試験場を設置し北千島近海に於ける漁場調査並に漁業試験をなし北千島開発の統制ある指針を完むると共に北洋海田の調査を進むること。

(リ) 増殖施設

北千島主要水産たる紅鮭及鱒場蟹に付速かに増殖保護を計ること。

其他測候所の設置或は衛生、教育等萬般の施設は漸を追ひ整備充實を要すること言を俟たざる所なり。

昭和十九年十一月 尊

昭和　年　月　日

文　部　省

小樽高等商業學校

小樽市役所